



オープンキャンパスの様子

本学の新型コロナウイルス感染対策について



保健センター所長／歯学部 准教授 大村 一将

新型コロナウイルス感染症という新興感染症が世界的な問題となり、現在もなお、未だかつてない状況が続いています。北海道医療大学においては、保健センター中心のもと感染対策委員会を設置し、本学が薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部、医療技術学部の6学部で構成される医療系総合大学である特徴を十分に活かし、各分野のエキスパートが同委員会の委員を務めることで多角的な対策を進めております。2月1日に新型コロナウイルス感染症が指定感染症に指定され、本学における対応は2月10日に「本学の対応について（第1報）」を学内に周知することからスタートいたしました。手指衛生、マスク着用などの接触および飛沫感染対策はもとより、留学生も多く在籍していることから海外渡航についても指針を定め感染拡大防止へ努めました。在学生および教職員が3密の回避、身体的距離等の感染対策情報を正しく理解できるよう、感染管理が専門である看護福祉学部の塚本容子教授をはじめとした本学教員の専門性を大いに活かしたガイダンス資料を作成いたしました。同内容は動画でも繰り返し視聴できるようにしています。

やっかいなことに、感染は十分な感染対策を行っ

ていても起こります。感染拡大防止策として、学生および教職員には日々の体調管理を徹底したうえで、発熱等の感染症を疑う症状を含めて何らかの体調変化時には公欠の扱いとすることで、不安なく登校・出勤を停止して療養に専念できる環境を整えました。体調不良の報告は保健センターで情報を集約し、また心理科学部の教員を中心に学生へのメンタルヘルスへの対応方法を定め、保健センター内の学生相談窓口では臨床心理士による相談をオンライン対応等も含めて再整備しました。

様々な制限が段階的に解除される中、本学では学生、教員が学外実習に参加する前には本学の先端研究推進センターにおいて唾液PCR検査が行われております。このような感染対策を行ったうえで、もし感染者が出た場合に備え、すでに各保健所とも十分な情報のやり取りを行い迅速に対応できる体制を作っています。

今後も本学の感染対策は、大学教育の場であるという特徴を活かし、将来の医療人として地域で率先した行動のできる学生の育成へも直結するように進めていきたいと考えています。

CONTENTS

本学の新型コロナウイルス感染対策について	1
教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介	2
2020年度入試結果報告	3
国家試験結果報告	4
就職状況結果報告	5
《塚本容子教授インタビュー》 ウィズコロナの時代に、 私たちができること。	6
新型コロナウイルスへの対応	8
OB訪問[言語聴覚療法学科]	10
リハビリテーション科学部レポート 「介護予防フェアinとうべつ」	11
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	

教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介

新規選出教員役職者

副学長 和田 啓爾	総合図書館長 青木 隆	薬学部 薬学部長 小林 道也 薬学研究科長 井関 健 教務部長 平野 剛 教務部副部長 柳川 芳毅 教務部副部長 木村 真一	薬学部 学生部長 岡崎 克則 学生部副部長 飯塚 健治 看護福祉学部 教務部長 白石 淳 教務部副部長 佐藤 園美 心理学部 心理学部長 冨家 直明	心理学部 教務部副部長 森 伸幸 学生部副部長 本谷 亮
---------------------	-----------------------	--	--	---

新規特任教員

リハビリテーション科学部 教授 青木 光広	医療技術学部 教授 坂倉 康則
--------------------------	--------------------

新任教員

薬学部教授
(創薬化学(薬化学))
小林 健一 (こばやしけんいち)
立教大学薬学部創薬化学科卒業。同大学院薬学研究科化学専攻博士前期課程、筑波大学大学院数理物質科学研究科博士後期課程修了。杏林製薬株式会社研究センター一級研究員、シカゴ大学化学科博士研究員、明治薬科大学薬学部講師等を経て、本学就任。理学博士。

薬学部教授
(薬学教育推進)
井関 健 (いせきけん)
北海道大学薬学部創薬化学科卒業。北海道大学医学部附属病院薬部副部長、北海道大学大学院薬学研究科教授、同薬学部薬学療法学専攻教授、フナトキ一大学薬学部客員研究員、北海道大学病院薬部副部長等を経て、本学就任。薬学博士。

薬学部講師
(創薬化学(医薬化学))
坪郷 哲 (つぼこうてつ)
東京理科大学理学部化学科卒業。東京大学大学院薬学系研究科分子薬学専攻修士課程修了。東京理科大学薬学部創薬化学科助教、東京大学大学院薬学系研究科GS社社会連携講座特任研究員等を経て、本学就任。薬学博士。

歯学部教授
(口腔構造・機能発育学系(保健衛生学))
三浦 宏子 (みうらひろこ)
東日本大学歯学部卒業。東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻修士課程修了。東京大学大学院医学系研究科講師、九州保健福祉大学保健科学部教授、国立保健医療科学院臨床協力部長、本学歯学部客員教授等を経て、本学就任。

看護福祉学部講師
(看護学地域看護学)
御厩 美登里 (みやまみどり)
本学看護福祉学部看護学卒業。本学大学院看護福祉学研究科修士課程修了。東京大学病院看護部、倉敷中央病院看護部、本学看護福祉学部看護学実習インストラクター、札幌医科大学看護学部(在宅看護領域)助教等を経て、本学就任。

全学教育推進センター講師
看護福祉学部講師(人間基礎科学(経済学))
金盛 直茂 (かなもりなおしげ)
北海道大学経済学部経済学科卒業。同大学院経済学研究科現代経済経営専攻修士課程修了。北海道大学大学院経済学研究科助教、大東文化大学経済学部社会経済学助教、札幌学院大学経済学部経済学科特任講師等を経て、本学就任。経済学博士。

全学教育推進センター講師
看護福祉学部講師(人間基礎科学(英語))
Shaun Hoggard (シャーン ホガード)
ランカスター大学政治学部卒業。同大学院言語学研究科英語教育方法学専攻修士課程修了。ELS JAPAN英語講師、YMCACインテス専門学校校務非専任講師、本学非常勤講師、北海道大学非常勤講師、北海道教育大学英語科特任講師等を経て、本学就任。

予防医療科学センター准教授
(医学部門)
平岡 美紀 (ひらおか みき)
日本医科大学医学部医学科卒業。日本医科大学附属病院(眼科)助手、オーフランド大学眼研究センター・ポスト・シシガン大学メディカルセンター・ポスト、日本医科大学附属病院眼科講師、札幌医科大学医学部眼科講師等を経て、本学就任。医学博士。

予防医療科学センター講師
(医学部門)
正木 芳宏 (まさきよしひろ)
北海道大学医学部医学科卒業。同大学院医学研究科医学専攻修士課程修了。北海道大学病院研修医、市立旭川病院循環器内科医、北海道大学病院循環器内科医、砂川市立病院循環器内科医、市立釧路総合病院心臓血管内科部長等を経て、本学就任。医学博士。

薬学部	助教(衛生薬学(環境衛生学))	窪田 篤人
	助教(薬理学(薬理学))	志賀 咲紀
歯学部	助教(口腔生物学系(生化学))	高田 鮎子
	助教(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	部 佳奈子
	助教(生体機能・病態学系(歯科麻酔学))	岩本 理恵
	助教(生体機能・病態学系(組織再建口腔外科学))	平木 大地
	助教(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学))	富田 侑希
	助教(口腔生物学系(生理学))	石川 里奈
	助教(口腔生物学系(薬理学))	仙葉 慎吾
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	藤田 桃子
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(高度先進歯科学))	森田 一誠
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(高度先進歯科学))	赤塚 知一
	任期制助手(生体機能・病態学系(組織再建口腔外科学))	横関 健治
	任期制助手(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学))	山田 隆介
	任期制助手(口腔構造・機能発育学系(小児歯科学))	石橋 美里
	任期制助手(口腔構造・機能発育学系(保健衛生学))	小原 匠
看護福祉学部	助教(看護学実践基礎看護学)	白川 そよか
	助教(看護学地域保健看護学)	若濱 奈々子
	助教(看護学成人看護学)	秋野 愛菜
	助教(看護学実践基礎看護学)	新見 千穂
	助教(看護学実践基礎看護学)	川見 弘樹
	助教(看護学地域保健看護学)	船橋 久美子
	助教(臨床福祉学精神保健福祉学)	鈴木 和
	特別研究員(看護福祉学)	米田 政葉
全学教育推進センター	助教(看護福祉学人間基礎科学(文学および文章指導))	冨家 健宗
先端研究推進センター	助教(リハビリテーション科学人間基礎科学(文学および文章指導))	山田 桃子
認定看護師研修センター	専任教員(感染管理分野)	北川 孝雄
	専任教員(感染管理分野)	原 理加
	専任教員(感染管理分野)	澤谷 啓行

昇任教員

薬学部教授
(薬学教育推進(薬学教育支援室))
木村 真一 (きむらしんいち)
東日本大学薬学部薬学卒業。同大学院薬学研究科修士課程修了。本学歯学部臨床薬理毒理学講座助手、同薬学部薬学講座講師、同薬学部薬学教育支援室講師、同薬学部薬学教育支援室准教授、本学長期海外研究員等を経て、教授昇任。薬学博士。

薬学部准教授
(生命物理学(薬品分析化学))
佐藤 浩輔 (さとうこうすけ)
北海道大学薬学部総合薬学卒業。同大学院薬学研究科修士課程修了。同大学院医学研究科薬科学専攻修士課程修了。東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。ジョンズ・ホプキンス大学化学科博士研究員、北海道大学大学院薬学研究科助教、本学薬学部講師等を経て、准教授昇任。理学博士。

薬学部講師
(薬理学(臨床薬理毒理学))
鹿内 浩樹 (しかないひろき)
本学薬学部総合薬学卒業。北海道大学大学院薬学研究科薬科学専攻修士課程修了。同大学院医学研究科薬科学専攻修士課程修了。本学薬学部薬学講座助教、北海道大学大学院薬学研究科薬理毒理学講座助教、フナトキ一大学 Visiting researcher 等を経て、講師昇任。医学博士。

歯学部教授
(口腔構造・機能発育学系(組織学))
細矢 明宏 (ほそやあきひろ)
新潟大学歯学部卒業。同大学院歯学研究科修了。松本歯科大学歯学部口腔解剖学第2講座准教授、長野県公衆衛生専門学校非常勤講師、Yonsei University College of Dentistry 海外特別研究員、本学歯学部組織学分野准教授等を経て、教授昇任。歯学博士。

歯学部教授
(生体機能・病態学系(内科学))
高橋 伸彦 (たかはしのぶひこ)
旭川医科大学医学部卒業。同大学院医学研究科博士課程修了。医療法人アンバー・デュナン会深川第一病院内科医長、旭川医科大学医学部消化器内科学専攻准教授、本学歯学部生体機能・病態学系内科学分野准教授等を経て、教授昇任。医学博士。

歯学部准教授
(生体機能・病態学系(内科学))
大村 一将 (おむらかずまさ)
北海道大学医学部医学科卒業。杏小牧市立病院内科医、旭川市立病院内科医、北海道内科リウマチ科病院医、北海道大学病院内科医、北海道内科学部内科学講座講師等を経て、准教授昇任。医学博士。

看護福祉学部准教授
(看護学成人看護学)
唐津 ふさ (からつ ふさ)
聖路加看護大学看護学卒業。本学大学院看護福祉学研究科修士課程看護学専攻修了。厚真町役場保健民生部保健福祉課健康支援係保健師、本学看護福祉学部看護学助手、同助教を経て、講師昇任。

看護福祉学部講師
(看護学地域看護学)
明野 聖子 (あけのせいこ)
本学看護福祉学部看護学卒業。同大学院看護福祉学研究科修士課程看護学専攻修了。厚真町役場保健民生部保健福祉課健康支援係保健師、本学看護福祉学部看護学助手、同助教を経て、講師昇任。

看護福祉学部講師
(臨床福祉学(社会福祉学))
松本 望 (まつもと のぞみ)
北見大学社会福祉学部福祉計画学卒業。日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士前期課程修了。同博士後期課程修了。上智大学福祉学部福祉学専攻福祉学非常勤講師、本学看護福祉学部福祉学専攻福祉学非常勤講師、本学福祉学専攻福祉学非常勤講師等を経て、講師昇任。社会学博士。

心理学部教授
(臨床心理学)
百々 尚美 (ひび なおみ)
広島修道大学人間関係学部心理学専攻卒業。同大学院人文学研究科心理学専攻博士前期課程修了。本学大学院心理学研究科臨床心理学専攻博士後期課程修了。大阪人間科学大学人間心理学専攻准教授、本学心理学部臨床心理学助教等を経て、教授昇任。臨床心理学博士。

心理学部教授
(臨床心理学)
森 伸幸 (もり のぶゆき)
北海道大学文学部行動科学卒業。同大学院文学研究科行動科学専攻修士課程修了。小浜心理士(非常勤)、札幌市スクールカウンセラー、北海道大学学生相談室相談員、本学心理学部臨床心理学助教等を経て、教授昇任。

心理学部准教授
(臨床心理学)
今井 常晶 (いまい つねあき)
東京学芸大学教育学部特殊教育学科卒業。同大学院教育学研究科障害児教育専攻修士課程修了。長崎大学大学院教育学総合研究科医療科学専攻予防医学講座博士課程修了。長崎大学総合保健センター准教授、本学心理学部臨床心理学助教等を経て、准教授昇任。

心理学部講師
(臨床心理学)
西郷 達雄 (さいこうたつお)
本学心理学部臨床心理学卒業。同大学院心理学研究科臨床心理学専攻修士課程修了。長崎大学大学院教育学総合研究科医療科学専攻予防医学講座博士課程修了。長崎大学総合保健センター准教授、本学心理学部臨床心理学助教等を経て、講師昇任。医学博士。

予防医療科学センター教授
(医学部門)
柴田 睦郎 (しばたむつお)
北海道大学医学部医学科卒業。市立小樽病院小児科医、スウェーデン国立カリンスカ研究所客員研究員、国立函館病院小児科医、新日鐵重工業総合病院小児科主任医長、北海道医療大学病院小児科医長、北海道医療大学予防医療科学センター准教授等を経て、教授昇任。医学博士。

2020年度 入試 結果報告

本年度の志願者数は
4,571名

本年度入試の志願者総数は、前年比2.1%減少の4,571名となりました。志願者の最も多かった学科は看護学科987名で、次に薬学部665名という結果でした。

編入学試験の
志願総数は24名

本学全体では24名が編入学を志願しました。うち13名が入学し、実質競争倍率は1.8倍でした。

専門学校志願者の
約8割がAO方式入試を利用

毎年志願者の多くがAO方式入試を利用しています。AO方式入試の志願者は23名で、全体の約80%を占めました。

2020年度入試結果

		薬学部	歯学部	看護福祉学部		心理科学部	リハビリテーション科学部			医療技術学部	歯学部附属歯科 衛生士専門学校	
		薬学科	歯学科	看護学科	臨床福祉 学科	臨床心理 学科	理学療法 学科	作業療法 学科	言語聴覚 療法学科	臨床検査 学科	歯科衛生科	
AO方式入試	志願者数	9名	20名	38名	3名	12名	54名	8名	15名	41名	23名	
	受験者数	9名	20名	38名	3名	12名	54名	8名	15名	41名	23名	
	合格者数	8名	18名	10名	3名	11名	15名	8名	15名	12名	23名	
	入学者数	8名	17名	10名	2名	11名	15名	8名	15名	12名	23名	
	実質倍率	1.1倍	1.1倍	3.8倍	1.0倍	1.1倍	3.6倍	1.0倍	1.0倍	3.4倍	1.0倍	
一般推薦入試	志願者数	6名	3名	28名	1名	3名	25名	5名	3名	26名	—	
	受験者数	6名	3名	28名	1名	3名	25名	5名	3名	26名	—	
	合格者数	6名	3名	23名	1名	3名	10名	5名	3名	12名	—	
	入学者数	6名	3名	23名	1名	3名	10名	5名	3名	12名	—	
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.2倍	1.0倍	1.0倍	2.5倍	1.0倍	1.0倍	2.2倍	—	
指定校特別 推薦入試	志願者数	49名	3名	26名	18名	18名	18名	4名	23名	8名	5名	
	受験者数	49名	3名	26名	18名	18名	18名	4名	23名	8名	5名	
	合格者数	49名	3名	26名	18名	18名	18名	4名	23名	8名	5名	
	入学者数	45名	3名	26名	16名	18名	18名	4名	23名	8名	5名	
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	
一般前期入試	志願者数	1日目	182名	77名	306名	79名	87名	116名	134名	81名	104名	—
		2日目	128名	75名	273名	67名	71名	99名	137名	81名	78名	—
	受験者数	1日目	178名	74名	295名	74名	83名	114名	131名	79名	100名	—
		2日目	121名	69名	265名	67名	70名	96名	135名	81名	75名	—
	合格者数	204名	92名	122名	83名	94名	77名	121名	95名	59名	—	
	入学者数	41名	21名	45名	9名	13名	27名	18名	8名	28名	—	
	実質倍率	1.5倍	1.6倍	4.6倍	1.7倍	1.6倍	2.7倍	2.2倍	1.7倍	3.0倍	—	
一般後期入試	志願者数	23名	68名	45名	13名	23名	17名	26名	17名	14名	1名	
	受験者数	21名	64名	43名	13名	19名	16名	25名	16名	14名	1名	
	合格者数	18名	52名	10名	13名	18名	9名	4名	16名	3名	1名	
	入学者数	8名	13名	8名	0名	1名	8名	2名	2名	2名	0名	
	実質倍率	1.2倍	1.2倍	4.3倍	1.0倍	1.1倍	1.8倍	6.3倍	1.0倍	4.7倍	1.0倍	
センター前期A入試	志願者数	183名	134名	162名	59名	81名	97名	120名	70名	74名	—	
	受験者数	183名	134名	162名	59名	81名	97名	120名	70名	74名	—	
	合格者数	162名	115名	47名	54名	75名	41名	58名	66名	16名	—	
	入学者数	40名	13名	3名	4名	9名	8名	9名	4名	9名	—	
	実質倍率	1.1倍	1.2倍	3.4倍	1.1倍	1.1倍	2.4倍	2.1倍	1.1倍	4.6倍	—	
センター前期B入試	志願者数	51名	43名	90名	53名	64名	64名	59名	53名	23名	—	
	受験者数	51名	43名	90名	53名	64名	64名	59名	53名	23名	—	
	合格者数	49名	37名	25名	53名	62名	31名	30名	51名	7名	—	
	入学者数	3名	5名	2名	5名	12名	6名	5名	5名	1名	—	
	実質倍率	1.0倍	1.2倍	3.6倍	1.0倍	1.0倍	2.1倍	2.0倍	1.0倍	3.3倍	—	
センター後期入試	志願者数	34名	22名	18名	14名	29名	10名	19名	15名	10名	—	
	受験者数	34名	22名	18名	14名	29名	10名	19名	15名	10名	—	
	合格者数	33名	19名	3名	14名	29名	3名	3名	15名	2名	—	
	入学者数	4名	3名	0名	4名	3名	1名	0名	2名	0名	—	
	実質倍率	1.0倍	1.2倍	6.0倍	1.0倍	1.0倍	3.3倍	6.3倍	1.0倍	5.0倍	—	
社会人特別 選抜入試	志願者数	0名	0名	1名	1名	0名	0名	0名	0名	1名	—	
	受験者数	—名	—名	1名	1名	—名	—名	—名	—名	1名	—	
	合格者数	—名	—名	1名	1名	—名	—名	—名	—名	1名	—	
	入学者数	—名	—名	1名	1名	—名	—名	—名	—名	1名	—	
	実質倍率	—倍	—倍	1.0倍	1.0倍	—倍	—倍	—倍	—倍	1.0倍	—	
TOTAL	志願者数	665名	445名	987名	308名	388名	500名	512名	358名	379名	29名	
	受験者数	652名	432名	966名	303名	379名	494名	506名	355名	372名	29名	
	合格者数	529名	339名	267名	240名	310名	204名	233名	284名	120名	29名	
	入学者数	155名	78名	118名	42名	70名	93名	51名	62名	73名	28名	
	実質倍率	1.2倍	1.3倍	3.6倍	1.3倍	1.2倍	2.4倍	2.2倍	1.3倍	3.1倍	1.0倍	

*医療技術学部の指定校特別推薦入試、センター試験利用入試、社会人特別選抜入試は2020年度入試から実施

国家試験 結果報告

各国家試験で本学卒業生が大健闘!

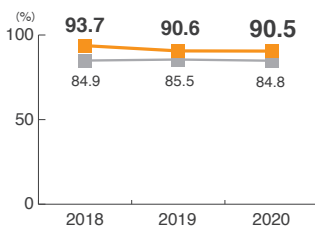
本学 全国平均

薬学部

(第105回 薬剤師国家試験)
道内の私立大学で第1位となる、90.5%の新卒合格率を達成。

2020年2月、第105回薬剤師国家試験が行われました。本学からは新卒者116名が受験し、合格者は105名。合格率は全国平均を上回る90.5%となりました。なお、本学薬学部卒業生総数6,045名の97.2%にあたる5,874名が薬剤師免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

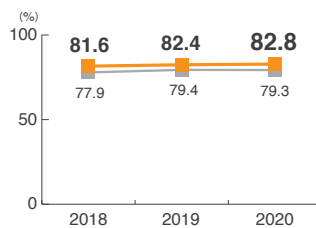


歯学部

(第113回 歯科医師国家試験)
全卒業生3,315名の98.2%が、歯科医師免許を取得。

2020年2月、第113回歯科医師国家試験が行われました。本学新卒合格率は82.8%(受験者58名・合格者48名)と、全国平均を上回りました。なお、本学歯学部卒業生総数3,315名のうち、98.2%にあたる3,256名が歯科医師免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

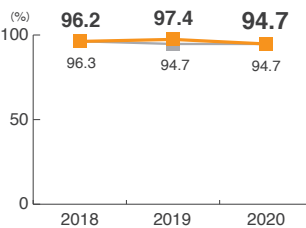


看護福祉学部/看護学科

(第109回 看護師国家試験)
全卒業生の98.8%が看護師免許を取得。

2020年2月、第109回看護師国家試験が行われました。本学の看護師の新卒合格率は94.7%(受験者113名・合格者107名)となりました。

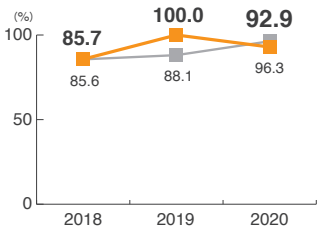
■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



(第106回 保健師国家試験)
新卒者13名が看護師と保健師の同時取得を実現。

2020年2月、第106回保健師国家試験が行われました。本学の保健師の新卒合格率は92.9%(受験者14名・合格者13名)となりました。13名が看護師と保健師の同時取得を実現しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

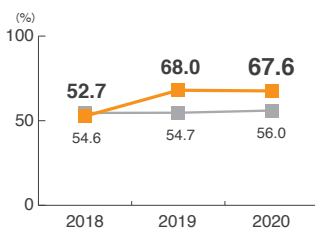


看護福祉学部/臨床福祉学科

(第32回 社会福祉士国家試験)
社会福祉士は、道内の私立大学で第1位の新卒合格率。

第32回社会福祉士国家試験の本学新卒合格率は67.6%(受験者34名、合格者23名)。道内の私立大学で第1位の好成績でした。

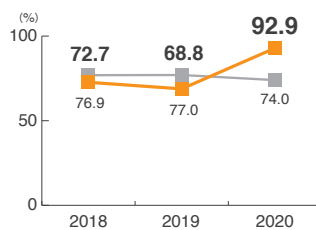
■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



(第22回 精神保健福祉士国家試験)
合格者の多くが社会福祉士とのダブルライセンスを取得。

第22回精神保健福祉士国家試験は92.9%(受験者14名、合格者13名)と、全国平均を上回る好成績を収めました。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



(第32回 介護福祉士国家試験)
新卒合格率は100%。
受験者全員が介護福祉士免許を取得。

第32回介護福祉士国家試験は100%(受験者5名)を達成しました。

■ 2020年合格率(新卒)

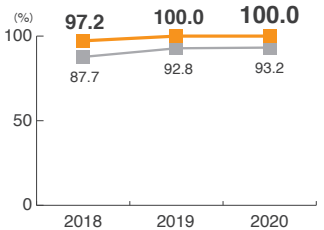
100.0%
[養成施設
全国平均80.0%]

リハビリテーション学部/理学療法学科

(第55回 理学療法士国家試験)
100%の新卒合格率。
全卒業生の免許取得率も100%。

2020年2月、第55回理学療法士国家試験が行われました。本学からは、第4期生となる新卒者84名が受験し、見事全員が合格。100%の合格率を達成しました。また、免許取得率も100%。1期から4期までの全卒業生が、理学療法士免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

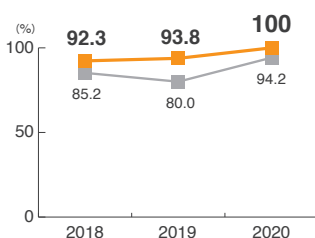


リハビリテーション学部/作業療法学科

(第55回 作業療法士国家試験)
新卒者全員が合格。
100%の新卒合格率と免許取得率。

2020年2月、第55回作業療法士国家試験が行われました。本学からは第4期生となる、新卒者30名が受験し、見事全員が合格。100%の合格率を達成しました。また、免許取得率も100%。1期から4期までの全卒業生が、作業療法士免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

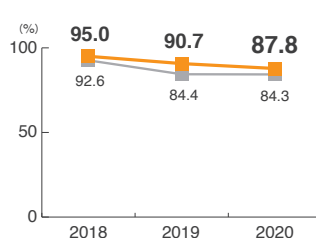


リハビリテーション学部/言語聴覚療法学科

(第22回 言語聴覚士国家試験)
安定した合格率。全卒業生837名の94.9%が言語聴覚士免許を取得。

2020年2月、第22回言語聴覚士国家試験が行われました。本学からは新卒者49名が受験、43名が合格し、合格率は87.8%。全国平均を上回る結果となりました。なお、本学科の全卒業生837名のうち、94.9%にあたる794名が言語聴覚士免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)

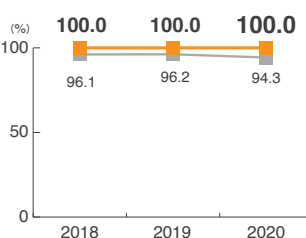


歯学部附属歯科衛生士専門学校

(第29回 歯科衛生士国家試験)
歯科衛生士国家試験は開校以来、資格取得率99.9%!

本校卒業生は開校以来、2020年3月卒業の34期生まで、99.9%と高い国家資格取得率を堅持しています。また、本校は文部科学省の定める一定の基準を満たした専門学校なので、卒業すると「専門士」の称号が与えられます。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



就職状況 結果報告

本学卒業生への評価の高さが、求人の質・量に直結。
より深い知識修得をめざし大学院へ進学する人も。

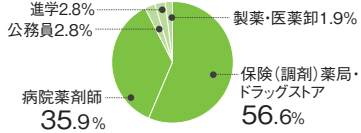
薬学部

4,000人を超える求人数。
卒業生は総合病院や調剤薬局などへ。

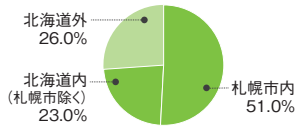
■2020年3月
卒業生の就職先

求人数	薬剤師……………4,807人
	MR・研究・開発職…103人

【職種等別進路先】



【地域別進路先】

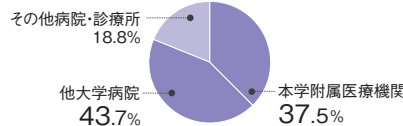


歯学部

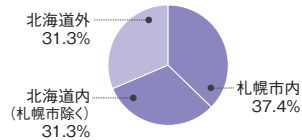
卒業後は、臨床能力の向上をめざし、
研修歯科医の道へ。

■2020年3月
卒業生の就職先

【職種等別進路先】



【地域別進路先】



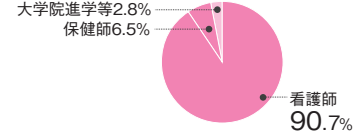
看護福祉学部／看護学科

札幌と首都圏を中心に、
全国の総合病院で卒業生が活躍中。

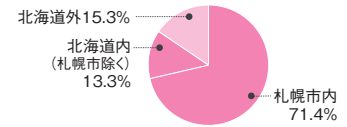
■2020年3月
卒業生の就職先

求人数	看護師……………9,843人
	保健師……………307人

【職種等別進路先】



【地域別進路先】



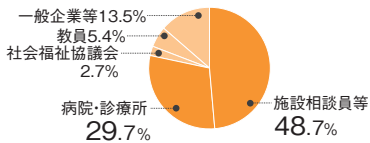
看護福祉学部／臨床福祉学科

施設や病院のほか、公務員、教員、
一般企業と様々な分野で活躍。

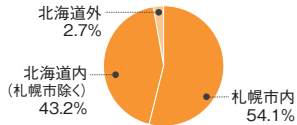
■2020年3月
卒業生の就職先

求人数	医療機関相談員……………202人
	福祉施設相談員……………1,415人
	介護職員等……………1,415人
	一般事務・その他……………7,299人

【職種等別進路先】



【地域別進路先】



心理科学部／臨床心理学科

業界や業種を問わず、多彩な分野へ。
大学院進学も多数。

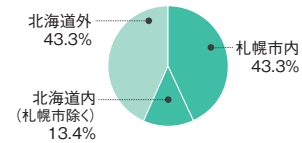
■2020年3月
卒業生の就職先

求人数	心理職……………147人
	一般事務・その他……………7,299人

【職種等別進路先】



【地域別進路先】



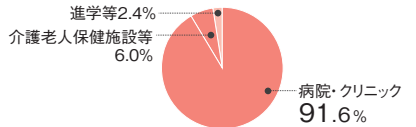
リハビリテーション科学部／理学療法学科

3期生も9割以上が病院へ就職。
道外への就職も多数。

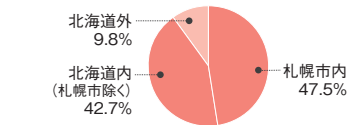
■2020年3月
卒業生の就職先

求人数	理学療法士……………3,232人
-----	------------------

【職種等別進路先】



【地域別進路先】



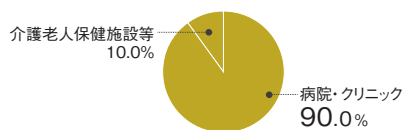
リハビリテーション科学部／作業療法学科

約9割が病院へ就職。全国各地から
寄せられる求人数は2,500人以上。

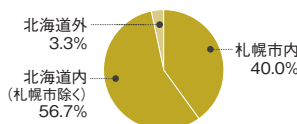
■2020年3月
卒業生の就職先

求人数	作業療法士……………2,660人
-----	------------------

【職種等別進路先】



【地域別進路先】



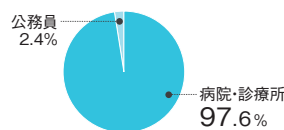
リハビリテーション科学部／言語聴覚療法学科

9割以上が、病院の言語聴覚士に。
卒業生への評価は高く、全国各地で活躍。

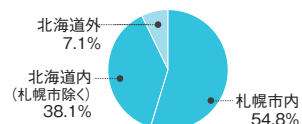
■2020年3月
卒業生の就職先

求人数	言語聴覚士……………1,155人
-----	------------------

【職種等別進路先】



【地域別進路先】



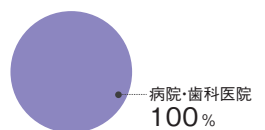
歯学部附属歯科衛生士専門学校

34期連続、
就職希望者全員が就職

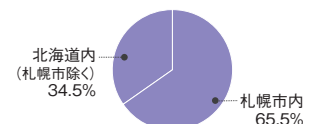
■2020年3月
卒業生の就職先
(歯科衛生士)

求人数	歯科衛生士……………856人
-----	----------------

【職種等別進路先】



【地域別進路先】



ウィズコロナの時代に、 私たちができること。



すすきのの飲食店で抗体検査を実施し、
病院・福祉施設では、感染防止対策の指導や講演も。
新聞やテレビでも、毎日のように発言している塚本教授に、
学内外で行っている取り組みへの思い、
最前線でがんばっている卒業生へのメッセージ、
そして、医療人をめざす在学生・高校生へのエールなど、
ウィズコロナの時代と向き合うヒントを伺いました。



看護福祉学部 看護学科 教授 / 大学院 看護福祉学研究科 看護学専攻 教授

塚本 容子

東京都生まれ。幼少の頃、両親の仕事のためアメリカやロシアで暮らす。千葉大学在学中、アラバマ州立大学へ留学。HIVをめぐる問題を目の当たりにする。卒業後は千葉大学病院勤務を経て、1995年からアメリカへ。病院の救命救急室で勤務しながら、サウスカロライナ大学で公衆衛生学、看護学、経営学の修士課程を修了。ファミリーナースプラクティショナー、HIVスペシャリスト、インфекションコントロールプラクティショナーの認定も受ける。地域医療の現場や、病院、保健所に加えて、医療保険会社、製薬会社でも勤務。2002年、その経験を生かして起業し、看護に関するリーガル・リスクマネジメントコンサルテーションに携わる。2005年本学着任、2009年より現職。ナースプラクティショナーや専門看護師（感染症看護）の養成に尽力し、新型コロナウイルス感染防止のための活動も幅広く行う。公衆衛生学博士（2006年、スタンフォード大学）。

Profile

その人の死を、無駄にしたくない。

私が感染症を専門とする看護師を志したのは、大学在学時。アメリカ南部のアラバマへ留学していたときでした。現地の医療現場でボランティアをしたいと申し出ると、紹介されたのはHIV患者のケアを行う施設。当時はHIV差別が強く、女性や子どもに対する問題は根深いものでした。HIV患者の家が放火される事件も頻発していました。そんな現実を目の当たりにし、大学卒業後に再びアメリカへ。病院で勤務しながら大学院で公衆衛生学を学びました。

そして、2003年のことです。一緒に学んでいた看護師の仲間が、世界的に流行していたSARSコロナウイルスによって亡くなってしまったのです。感染を防げず、たくさんの尊い命が奪われていく。その経験はとてつらく、臨床現場から離れた時期もありました。しかし今は、はっきりといえます。その人たちの死を、無駄にしません。私の使命は、患者さんに学んだことを生かし、世界から感染症をなくすことです。

チャレンジすれば、誰かが支えてくれる。

キャンパス外でも、感染防止のための活動を行っています。そのひとつが、すすきのの飲食店

やみくもに、おそれない。

正直に申し上げますと、私は当初、新型コロナウイルス感染症がこんなに長く続くとは思っていませんでした。今、500年に一度ともいえる歴史的な出来事が起きています。これから先は、冬から春にかけて感染拡大が危惧されています。過去にSARS・MERSコロナウイルスの感染状況が、インフルエンザと関連していたからです。少なくとも来年の春までは、私たちの生活に影響を及ぼすと考えられます。

一方で、ウイルスの特徴や感染防止対策など、様々なことが科学的に解明されてきました。たとえば、マスクの着用で感染リスクをかなり抑えられます。息苦しいですが、自分が感染しているか

もしれないという意識を持ちましょう。そして、科学的根拠に基づいて、今できることを探っていきましょう。経験したことのない出来事が相次ぎましたから、その記憶を上書きするのはなかなか難しいですが、やみくもにおそれないことが大切です。

キャンパスでは、対面授業の制限を段階的に緩和。少しずつ活気が戻ってきました。感染防止対策をとるクラブ・サークルの活動も許可する方針です。そして、病院や福祉施設などでの学外実習も再開しました。対策として、実習に臨む学生・教員にPCR検査を実施。必要な場合は抗体検査も行います。検査には学内の人的資源と、研究活動に使用する機器を活用。学生が安心・安全に学べる環境確保のために、積極的な対策を行っていきます。

での抗体検査です。私を含む本学教員がお店を訪問し、スタッフの検査を実施。体調だけではなく、感染防止対策の実情や困っていることもお聞きします。その人に起きている問題を把握し、解決することもできる。それが看護師の強みです。

今までに検査を受けた200人以上の方々からは、安心して営業できる、自分の行動を振り返る機会になった、感染防止の意識が高まった、という声をいただいています。すすきでは、マスクを着用する人が確実に増えています。

活動開始のきっかけは、抗体検査の機器を導入したという、本学浅香学長からの連絡でした。それならすすきで実施したいと考えた私は、新聞社やテレビ局などに相談。多方面の協力を得てスタートしました。その後、札幌市の秋元市長にもご報告。すると、検査キット費用などを市が支援していただけることになりました。学内のやりとりが、今では自治体と連携した活動に。これから、私にできるチャレンジを継続します。

アクションを起こせば、何かを変えられる。在学生のみなさんにも、ぜひそう実感してほしいと思っています。たしかに、キャンパスに行けない、サークル活動もできないなどの制限はつらいです。しかし、不満を抱えているだけではもったいない。問題の起きている場所で、イノベーションは生まれるのです。

8月中旬、当別神社の例大祭が行われました。全国各地のイベントが中止になる中、1人も感染者を出さずに開催できたのは、運営に携わる本学学生ボランティアのチャレンジがあったからです。何とかお祭りを、という町民の思いに応えるために、感染防止対策の計画を立案。私のところに相談に来てくれました。そして、練りに練った計

画を自分たちの手で実践し、お祭りを成功させたのです。本当に素晴らしかった!

これからの社会に目を向けると、少子高齢化などから、従来の方法で医療を提供するのは難しくなります。そのとき求められるのは、イノベーションを起こせる人材。ですから私は、学生のチャレンジを応援します。アクションを起こせば、誰かが支えてくれるはず。それが、医療系総合大学である本学のいいところです。

社会にもっと、看護師の視点を。

ウィズコロナの時代、少子高齢社会で求められるのは、自宅でもその人、そのときに必要な治療や投薬を受けられる体制です。当別町では、入院できる医療機関がなくなりました。その流れは全国的に進むでしょう。キーワードは、タイムリーな医療サービスの提供。それを実現できるのが、ナースプラクティショナー(NP)です。日本にはまだない職種で、先日私は厚生労働大臣にNPの必要性を提言しました。

NPとは、1960年代のアメリカで生まれた上級看護師です。診断や薬剤の処方などを行い、医師のいない地域では欠かせない存在。私もアメリカでNPとして勤務していました。日本でも少しずつ議論が進展し、本学大学院は2010年に北海道唯一のNP養成課程を設置。その後、診療看護師という民間資格も誕生しましたが、制度的には確立していません。

たとえば、新型コロナウイルスに感染した疑いのある患者さんがいた場合。NPが自宅を訪問しタイムリーな診察・診断を行うことで、患者さんの負担はもちろん、受け入れ先の確保、搬送などにかかる時間や労力が軽減できます。NP制度の導入、看護師の裁量権拡大で解決できる問題は、ほかにも数多くあります。

今、社会に必要なのは看護師の視点です。治療や対策はこうあるべき、という理論に対して、患者さんにとってより良い方法は何か、という視点が足りません。私は病院・福祉施設で指導を行うときや、メディアで発言するとき、もちろん授業でも、看護師の視点、生活者の立場を重視しています。科学的に正しい対策でも、家庭でやるのが難しければ意味がありません。感染防止対策はヒューマンファクター。大切なのは、その人が対



感染防止対策の指導を行う福祉施設からは、季節の催事や交流の機会が減ったためか、利用者の日常生活機能が低下したという報告も。「感染さえ防げばいい、という問題ではないことを深く考えさせられました」。

策を継続できることです。

最前線でがんばっている卒業生も、ぜひもっと声をあげてください。強い使命感でケアにあたるみなさんの声に、社会はきっと耳を傾けるはずですよ。患者さんが困っていることは何か。どうすれば社会はより良くなるのか。誇りを持って発言してください。私にできることがあれば、よろこんでサポートします。

人を救えるのは、人しかいない。

在学生や、本学を志望する高校生のみなさんは今、医療人になることについてどう思っているのでしょうか。院内クラスターがこわいし、患者さんと密になるのは不安かもしれません。私には、答えがあります。正しい知識と技術があれば、おそれることはありません。私はクラスターの発生した病院にも行っています。患者さんとも接触しています。でも感染していません。

そして、医療人とは、人にしかできない職業です。全国各地でがんばっている医療人が、そのことを教えてくれています。いつか医療現場にロボットやAIを活用する時代が来ても、人を救えるのは結局、人なのです。その人の痛みやつらさを共有すること。一人ひとりの個性や状況の変化に合わせて、柔軟に発想すること。そして、精いっぱい努力を重ね、希望を叶えること。人を大切にしながら、きめ細かいケアを行えるのは、人しかいません。

これから本学は、人を救うため、地域社会の問題を解決するためにチャレンジする、すぐれた医療人を育てます。一緒に正しい知識と技術を学び、より良い世界をつくっていきましょう。



現在は、札幌市、札幌市医師会、全日本病院協会などと連携し、発熱外来を設置する医療機関を増やすための活動も行っている。「インフルエンザの流行時期までに十分な体制を整えられるよう、優先度を上げて取り組んでいます」。



新型コロナウイルスへの対応

基本方針・対応

新型コロナウイルス感染症については、社会全体としての長期的な対応が必要となることが見込まれる中、学内における感染およびその拡大のリスクを可能な限り低減した上で教育活動を継続していくためにも、「新しい生活様式」を踏まえた感染予防対策が重要となります。皆様におかれましては、引き続きご理解・ご協力ならびに適切な対応をお願いいたします。

1 感染防止対策について

手指衛生(石けんによる手洗い、手指消毒)を徹底し手で眼、鼻、口に触れないことを意識すること、マスク着用・咳エチケットの徹底、身体的距離(最低1m)の確保が重要な基本的予防対策となります。必ず毎日、検温および健康状態(症状)のチェックを行い、発熱等体調不良が少しでもみられた場合は、授業や仕事を休み自宅療養してください。若者世代は、新型コロナウイルス感染による重症化リスクは低い一方、重症化するリスクの高い人に感染を広げてしまう可能性があります。「密閉空間」、「密集場所」、「密接場面」の3つの密を避け、次のような行動をお願いいたします。



- 軽い風邪症状(のどの痛みだけ、咳だけ、発熱だけなど)でも外出を控えること
- 規模の大小に関わらず、風通しの悪い空間で人と人が至近距離で会話する場所やイベントに行かないこと(例えば、飲み会(自宅を含む)、ライブハウス、カラオケボックス、クラブ、立食パーティーなど)
- 可能な限り人混みを避けるとともに、乗り物など換気の悪い場所では周りの人とできるだけ間隔を空け、会話を控えること

2 授業について

6月15日より、オンライン授業を基本とし、実習や演習などの一部の授業で対面授業を再開していますが、7月13日、8月3日、8月31日に、制限をそれぞれ段階的に緩和しています。

3 学生のキャンパス内への立ち入りについて

当面の間、対面授業等により登校を認められた学生のみキャンパス内への入校を許可いたします。また、入校にあたってはマスクの着用と毎日の健康観察を必須とします(登校の前日および前々日を含めて発熱等体調不良がみられた場合は登校を禁止します)。大学院生は、継続すべき研究など特殊事情がある場合は指導教員の責任のもとで許可となります。指導教員は対象大学院生の行動を把握し、感染防御の配慮を十分に行ってください。

4 学外者の大学キャンパス内入構について(入構制限)

不特定多数の方の利用による感染を防ぐため、学外の方(北海道医療大学病院および歯科クリニックを受診される患者の方、こころの相談センターを利用される相談者の方、配送・納品業務等で大学が必要と認める業務にかかる業者の方等を除く)について、当面の間、大学キャンパス内への入構を制限いたします。ご理解・ご協力をお願いいたします。

5 学生・教職員・ご家族が感染者、感染疑い者、または濃厚接触者となった場合の対応について

本学ホームページにて公表の「学生および職員の対応について」および「新型コロナウイルス感染または感染疑い者の届出チャート」に従い、対応をお願いいたします。

その他の方針・対策につきましては、本学ホームページにて公表の「新型コロナウイルスに関する本学の対応について」をご確認ください。

活動状況

本学歯学部同窓会よりマスクをご寄付いただきました

5月27日、本学歯学部同窓会より学生向けにマスク12,000枚をご寄付いただきました。贈呈式では歯学部同窓会より中井一元専務理事、伊藤修一常任理事(本学歯学部教授)、学園より鈴木副理事長、浅香学長らが出席し、中井専務理事より「厳しい状況にある中で、同窓会として少しでも後輩たちの力になればと思い、贈らせていただきました」とのお言葉を頂戴しました。新型コロナウイルスの感染拡大により不足が続いていた状況下でご寄付いただいたマスクは後日、各学生に配布しました。歯学部同窓会の皆さまのご厚意に対し、心より御礼申し上げます。

教員が各メディアで情報発信

看護福祉学部看護学科の塚本容子教授をはじめ、薬学部
の岡崎克則教授、臨床検査学
科の吉田繁教授、先端研究推
進センター長の小林正伸教授
など、各教員がテレビや新聞な
どのメディアで新型コロナウイルスの危険性や注意すべき点、
対処法など、正しい知識を世
間に広く発信し、さらなる感染
拡大の防止に努めています。



岡崎克則教授(提供:北海道新聞社)

学生有志が「オンライン自習室」に協力

コロナ禍で休校が続く児童生徒を支援するため、当別町の町民グループ「あそびーの」と本学の学生有志は、4月20日～5月3日の期間中、web会議システムを活用した「オンライン自習室」を開設しました。当別町や周辺の石狩市・新篠津村・月形町の小中高生にスマートフォンやパソコンなどからアクセスしてもらい、勉強方法や学校の宿題だけでなく自宅での過ごし方など、様々な相談に乗りました。



経済支援

● 自宅学修支援金の給付

大学、歯科衛生士専門学校で学ぶ全ての学生(大学院生・2020年度1年間休学する者を除く)に対して、オンライン授業等の学習環境整備も含めた自宅学修支援金として一人当たり一律に5万円を支給しました。

● 東日本学園奨学金 一般奨学生採用人数の拡大(無利子・貸与)

新型コロナウイルス感染症に係る家計急変により奨学金を希望する学生を対象に採用枠を拡大いたします。従来よりも手続きを簡素化し、速やかに貸与を進めていきます。

● 学生援助資金貸付の充実

本学独自の短期貸付制度「学生援助資金貸付」について、新型コロナウイルス感染症の影響によりアルバイト収入の減少など家計が急変し、生活に困窮した学生を支援することを目的に、限度額を6万円に増額、貸付期間を2021年3月15日に延長し、また、速やかな貸与を行うため、電子申請による受付を新たに行うことといたしました。

● 学費納入猶予期限の延長

7月15日に設定していた前期授業料の納入猶予期限を最長2021年3月15日まで延長いたしました。

OB 訪問



JR野幌駅南側の住宅街に今年4月、一軒家をリフォームした「ことのは発達相談室」をオープンさせた川岸さん。心理職から言語聴覚士へ、事業所勤務から起業へ、アグレッシブなOBです。

ことのは発達相談室(江別市)

代表・児童発達支援管理責任者・言語聴覚士

川岸 尚史さん (心理科学部言語聴覚療法学科 2013年3月卒業)
[現リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科]

心理士としてキャリアスタート

「話す」「聞く」「食べる(飲み込む)」に関する障害の専門職・言語聴覚士。本学を卒業した言語聴覚士の多くが病院・福祉施設の高齢者リハビリテーション分野で活躍中ですが、川岸さんの専門は小児・児童分野、さらに独立開業を果たした経営者でもあります。

高校卒業後に他大学で心理学を学んだ川岸さんは、在学中にボランティアとして通った児童養護施設での経験から子ども分野の支援を志しました。卒業後は札幌の児童発達支援センターで心理士として働き始めましたが、そこで知ったのが、ことばの発達やコミュニケーションの問題に対する支援への高いニーズ。「言語聴覚士の資格があれば、もっと役に立てる」と考えた川岸さんは一度現場を離れて国家資格取得をめざすことを決意、本学3年次に編入学しました。

言語聴覚士として療育を追究

本学卒業後は言語聴覚士として江別市子ども発達支援センターに就職、経験を積んで事業所運営に責任をもつ児童発達支援管理責任者資格も取得しました。保育士、心理士など様々な職種と連携して子どもたちと関



共同経営者との熱い議論はほぼ日課。その熱意の源はいたってシンプル。「人と目を合わせられない子どもが私の目を見て話せた瞬間、表情のない子どもから笑顔が出た瞬間、「この先生に伝えたい」という気持ちを引き出した瞬間が本当にうれしい。その瞬間に、どんな苦労も報われます。」

わる毎日には確かな手応えがあり「仕事はどんどん面白くなっていった」といいます。

転機の兆しは約2年前。支援を追究する中で「思い描く療育をかたちにしてみたい」という気持ちがわき、同僚と理想像を語り合ううちに具体的な構想へと発展していったのです。そして、川岸さんは2度目の大きな決意をします。起業です。

やりがいは「起業」へ発展

起業は事業計画書作成から金融機関等との調整、物件探しなど初めてのことばかり。「眠れない、食事が喉を通らない日もあった」といいますが、今年4月、前職場の同僚と共同で「ことのは発達相談室」を開業、1日10名定員の児童サービスで発達障害や構音・きこ音障害、難聴などの支援を始めました。

川岸さんは同施設に療育への思いを詰め込みました。専門的な個別支援のため、スタッフには保育士や児童指導員に加え、言語聴覚士、心理士、保育士など専門職を揃えました。このように多様な専門職が揃う児童サービス施設はまだ多くはありません。また、愛着関係が成長の大事な基盤と考え、保護者も一緒に「親子通所」が基本です。施設名の「相談室」には、保護者の不安に寄り添う気持ちが込められています。さらに、子どもの日々の過ごしやすさを効果的に支援できるよう、幼稚園や学校とも密に連携しています。

必要な支援を必要の人に

江別市には民間の小児・児童の通所施設が約30カ所あるものの、まだ待機者がある状態だそうです。そこで「必要とする子ども誰も



志を一つにするスタッフのチームワークは抜群。子ども一人ひとりの課題に複数の専門的視点を融合させて臨みます。

が身近な場所で専門職の支援を受けられる地域づくりに貢献したい」と、来年4月には同じ地域に児童デイサービスの2店目をオープンさせる予定です。必要とする声がある限り、川岸さんのチャレンジはまだまだ続きます。功名心とは一線を画す、人の温かさが通う言語聴覚士の事業展開から、目が離せません。



出番の多い玩具は「手に触れるものだから上質なものを」と、ほぼ全てをデザイン性、機能性が高く、手触りもよい北欧製(一部国産)から自らセレクトしています。

コロナに負けるな！ 地域住民の方々の 元気を取り戻そう！



コミュニケーションから笑顔や笑い声が自然とあふれていました。

去る7月9日、本学リハビリテーション科学部の講義「地域包括ケア演習」の一環として地域住民に対するミニイベントを開催しました。このイベントは「介護予防フェアinとうべつ」として、本学部発足以来継続実施して今年で5回目となりました。

例年、当別町公認キャラクターを招いたり、学生たちが試食コーナーを設けたりと、多くの住民で賑わうイベントとなっていますが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、一時は開催も危ぶまれました。しかし、お互いが対面できない中でもプログラムの工夫や打ち合わせなど、学生たちの様々な創意と工夫により、地域住民20名をお招きし感染対策に留意しながら楽しいひと時となりました。

学生による健康講話、体操、脳トレを兼ねたレクリエーションなど学生たちが日々学ぶリハビリテーションの知識を活かした内容を実施。参加された高齢者の方は、「学生さんのはつらつとした姿に、元気をもらえました」と笑顔で話してくださいました。

リハビリテーション科学部では、本科目以外の講義や演習を通じて地域住民の方々と様々な交流機会があります。これからも、講義を通して当別の方々の元気のお手伝いに取り組んでまいります。

地域の
みなさんに
喜んでもらえました！



【受賞報告】 歯学部学生技能コンペティション 最終選考 優秀賞

歯学部5年の市村俊太郎さんが、第2回JPS student clinical skills competition最終選考の優秀賞を受賞しました。

JPS student clinical skills competition(日本補綴歯科学会・学生技能コンペティション)は、的確な臨床判断能力と、高いレベルの臨床技能を有する歯科医師を育成するために企画された、全国の歯学部学生を対象とした臨床技能試験です。

市村さんは、一次審査(全国の歯学部・歯科大学26校の各代表1名からの選抜)を経て、最終審査進出者の8名に選定され、見事、優秀賞を受賞しました。



滝川市教育委員会より 感謝状が授与されました

心理科学部学部長の冨家直明教授(写真右)は、2014年に滝川市いじめ防止専門委員会会長に就任以来、滝川市のいじめ防止対策と教育行政の推進に尽力してきましたが、このたび離任することになり、これまでの功績をたたえ滝川市教育委員会教育長より感謝状が授与されました。

滝川市はいじめ防止対策をはじめ、子どもの教育支援に熱心に取り組んでいます。北海道医療大学は滝川市と連携協定を結び、積極的に同市の事業を支援してきました。後任の滝川市いじめ防止専門委員には同じ心理科学部の百々尚美教授(写真左)が就任することが決定しています。



「北海道医療大学駅」がターミナル化

当別キャンパス直結のJR「北海道医療大学駅」は、2020年5月7日よりJR学園都市線の最終駅となったことに伴い、「札幌駅」～「北海道医療大学駅」の電車が40便から66便へと大幅に増便。改札機・出入口の増設、駐車場の拡大、カーポート・バスターミナルの整備なども行われ、通学がますます快適になりました。



EDITOR'S NOTE

2020年も残り2ヶ月となりました。年初から新型コロナウイルスの影響で、緊急事態宣言が出され卒業式や入学式も施行できなくなり、学生や保護者の皆様におかれましては、式典を大変楽しみにされていたことと思います。

4月以降も緊急事態宣言が解除されてもなお、通常登校ができずオンライン授業を本格導入することになり、学生の皆さんは登校が制限されキャンパスで学ぶ楽しさや友人と語り合う楽しさの多くを奪われた状態で新学期をスタートしなくてはならなくなりました。また国内情勢も東京オリンピックをはじめ、多くのプロスポーツの試合延期、音楽イベント等の大規模な興行の中止、日常生活でも多々制限のある中、徐々に通常の学校生活に戻すべく創意工夫し今に至っております。

本学では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で一部のオープンキャンパスが中止になり、特設サイトの公開ならびにオンライン個別相談なども開催しています。学生たちには、明るく希望のある未来を過ごしてほしいと心から願い、学生生活を今以上に有意義に、かつ実りのあるものにし、努力を継続することが必ず自分の自信に繋げて欲しいと思っています。教員も一人の指導者として、学生が力を出し切れる環境をつくり、学生の持っている力を伸ばしていきたいものです。

新型コロナウイルス感染症に対して、多くの方がそれぞれの立場で懸命に取り組んでいます。私たちに出来る最大限の対策を継続し、この事態が収束に向かっていくように願っております。(M.Y記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.175

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 志茂 剛 飯嶋 雅弘
八木 こそえ 下山 美由紀 真島 理恵 澤田 篤史
児玉 壮志 下村 敦司 近藤 啓 高橋 祐輔
山形 摩紗 三浦 清志 三川 清輝 近田 卓哉

発行日 ● 2020年10月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
TEL: 0133-22-2113
http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail: nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp



北海道医療大学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを北海道医療大学の教育理念とする。